

記者資料提供(2024年6月7日)

しあわせの村指定管理者 しあわせの村運営共同事業体

(公財)こうべ市民福祉振興協会 事業課 坂井・山岡

TEL:078-743-8190 FAX:078-743-8180

E-mail: kokoroart2011@shiawasenomura.org

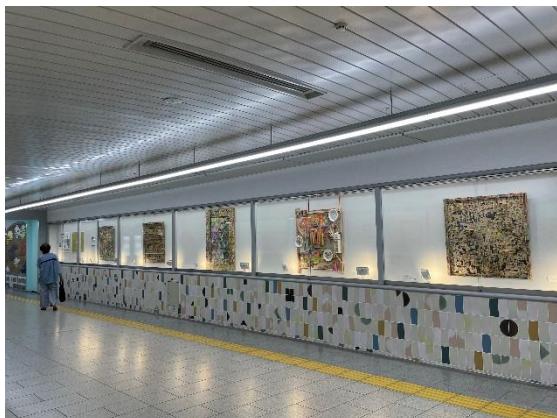
## 神戸の海と山の2カ所で同時開催 しあわせの村の障がい者アート展「こころのアート展」のセレクト作品展

しあわせの村(神戸市北区しあわせの村 1-1)で毎年開催する「こころのアート展」<sup>※1</sup>。昨年度の「第12回こころのアート展」で展示した作者の作品をより多くの皆さんにご覧いただくため、海近くの三宮の地下通路ギャラリー「サンポチカギャラリー」<sup>※2</sup>と、山のしあわせの村「こころのアートギャラリー」<sup>※3</sup>の2カ所で同時にセレクト作品展を開催中です。

※1「こころのアート展」とは、ソーシャルインクルージョンの実現を目指す総合福祉ゾーン「しあわせの村」で開催する障がい者アート展です。障がいのある人たちの表現する場を提供し、また、彼らの素晴らしい作品が社会から評価を受け、障がい者の個性が発揮される分野が広がり、認め合い、ともに生きることのできる社会の実現に役立つことを目的として開催するものです。兵庫県内の公募で選出された10名の作者のそれぞれの作品約10点ずつを個展形式で展示し、作者の世界観を鑑賞していただける全国でも珍しい展覧会です。

※2「サンポチカギャラリー」:神戸市文化スポーツ局文化交流課と(公財)こうべ市民福祉振興協会が連携して、こころのアート展の作品を2023年4月から展示を行い、広く皆さんにご覧いただいています。

※3「こころのアートギャラリー」:いつでも「こころのアート展」の作品に会える空間として、2020年にしあわせの村本館・宿泊館2階にオープンした常設ギャラリーです。



サンポチカギャラリー会場



こころのアートギャラリー会場

### 1. こころのアート展×サンポチカギャラリー ~内田純二・K.M 展~

#### (1) 概要

##### ① 展示期間

2024年5月31日(金曜)から9月2日(月曜)

##### ② 主催

(公財)こうべ市民福祉振興協会・神戸市文化スポーツ局文化交流課

##### ③ 展示場所

サンポチカギャラリー(神戸市中央区、海岸線三宮・花時計駅から旧居留地大丸前駅地下道(サンポチカ)の一角)

## (2) 作者と展示作品について

- 内田純二(うちだ じゅんじ)さん 1970年生まれ 姫路市

通っている施設の月3回の絵画教室で、10年以上描いてきました。湧き上がるイメージがずっと形になる様子で、描いているときは楽しそうです。ここ数年は、木材など廃材を使った立体作品にも取り組んできました。最近、少し体力が落ちてきて、以前ほどは長く集中できなくなり、ゆっくりのペースで創作しています。穏やかな笑顔と人柄で、施設の仲間や職員の皆さんに親しまれています。

(ライター木田氏文引用)

今回の展示作品は、木材や針金に彩色したカラフルでユーモラスな半立体の大作5点です。



「僕の仏像 お念仏」

- K.M(けいえむ)さん 1993年生まれ 神戸市



「心音」

感情の揺れや、不安、周囲とのあづれき、痛み、かなしみ。描くことは、「言葉では伝えにくいものや、あこがれを出していく作業」だと、作者は話します。子どもの頃から、まわりの人たちの中で、自分だけ離れていたり、孤立したりという経験をしました。絵を始めてからは「不安をアウトプットできるようになった」そうです。「思いどおりに描けたときは、うれしく、楽しい気持ちになります」(ライター木田氏文引用)

今回の展示作品は、作者の穏やかな気持ちや、不安定な気持ちなど、揺れ動く内面を素直に表現した平面小品5点です。

## (3) その他

会場には、作者の制作場面の動画も展示します。より作品が身近に感じられることと思います。

## 2. こころのアートギャラリー企画展 十人十色展 Vol.16, 17

### (1) 概要

#### ① 展示期間

2024年5月31日(金曜)から7月30日(火曜)

#### ② 主催

(公財)こうべ市民福祉振興協会

#### ③ 展示場所

こころのアートギャラリー(神戸市北区しあわせの村1-1 しあわせの村本館・宿泊館2階)

### (2) 企画展のテーマおよび作者と作品について

#### ① Vol.16「増殖する点と線」

- 寝坊 Ken.Ta(ねぼう けんた)さん 1988年生まれ 姫路市

作品の制作は、生物の欲求一つで、体の中に溜まってきたら、排泄物(作品)として体外に出す

ための手段だそうです。

超微細な「丸描いてちよん」の繰り返しの作品は、最初は絵ですらないもの。それは記号の羅列なのか…。繰り返し描いていると、だんだんと何か形になりたがっているのが分かってくると彼は話します。まるで、一つの細胞が増殖を繰り返し、形ができていく細胞群体のようにすら感じられますが、その不定形なものに、目や唇などが描きこまれ、一つの完成形となり、作品に圧倒的な存在感を醸し出します。

常に恐怖と戦っていて、負けたときは自傷行為を繰り返しますが、アートは救済の一つの道なのだそうです。



「感覚の消去」

➤ 森脇健人(もりわき けんと)さん 1992年生まれ 神戸市

穏やかな性格の森脇さんは、作業所では人気が高く、メンバーからの信頼も厚いです。

纖細で無口な彼が、制作途中にぽつりぽつりと話をしながらニヤリと笑う表情が印象的です。一流のショコラティエと、全国の障がい者がタッグを組んで、レベルの高いチョコレートを作り出すコンセプトのチョコレート工房に勤めている彼の担当は、美味しいチョコレートを作る上で



「sen8」

の最後の重要なポイントになるテンパリング※4です。

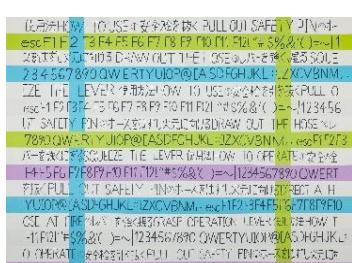
森脇さんは精神が不安定な時に制作する方が発想が良いのだそう。

黒い線のみで構成された作品は、1mmのボールペンを使い描画します。それは決して単調ではなく、一本一本に表情を感じられます。私たちは、その線が次第に大きくうねり、呼吸をしているように感じたり、地形の等高線にも見え、地形を俯瞰しているような感覚にも陥ります。

※4 テンパリング: 温度調整でカカオバターの結晶型を整える操作のことで、1°C単位での調整をする必要があります。

## ② Vol.17「まっすぐ×まどわず×好奇心」

➤ 榎並一貴(えなみ かずき)さんは 1992年生まれ 尼崎市

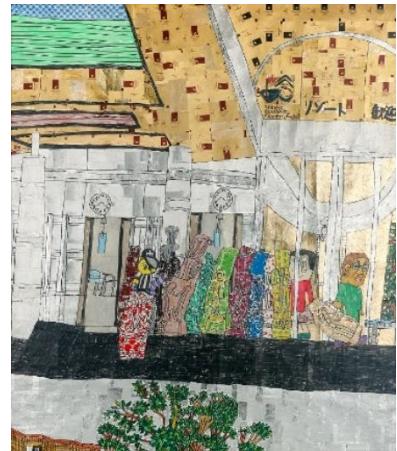


「フリー手帳の消化器の取説  
繰り返し」

作品から読み取れる通り几帳面な性格です。作業をする前は、まず整理整頓。鉛筆、定規をまっすぐ置きます。彼は文字に深い愛着があり、几帳面さが表れています。縦横にまっすぐに伸びた線は、まるで印刷された活字のよう。作品「長谷川先生の靴下…」や「三山さんのズボン…」は、過去の記憶からの光景を連続文として書いています。読むと思わずニンマリしてしまいます。

➤ 谷岡諒一(たにおか りょういち)さん 1993生まれ 淡路市

彼の作品は、コラージュや色々なモチーフを羅列するなど、バリエーションがあります。チョコレートやキャンディの包み紙をバックにびっしりと貼り付けた作品は独特な空気感と奥行があります。モチーフを羅列した作品は、よく見るとそれぞれに関連性があり、作品「しりとり」は鑑賞者が解読することを楽しみにしているようです。タブレットで検索した写真を参考に描きます。形を把握する時の彼の目は鋭く、ジッと見つめたのち、惑うことなく輪郭線を一気に描き上げます。



「ゴルフ場」

➤ 西尾猛(にしお たけし)さん 1950年生まれ 佐用町



「海の中」

車いすで釣りや喫茶店に行く好奇心旺盛なアクティブショニアです。動植物や人物など多彩なモチーフはまさに彼の好奇心の表れなのでしょうか。色調や、ひょうひょうとした表情のカメ、タコ、人間や花は優しい彼そのものです。「お母さん」と「赤鬼」がとても良く似ているのはなぜなのでしょう。でも、どちらも優しさに満ち溢れています。

(3) チラシ PDF:別紙のとおり

(4) その他

会場には随所にソファーも用意しています。アートに包まれ、ゆったりとした時間をお過ごしください。

3. お問い合わせ先

(公財)こうべ市民福祉振興協会 事業課

こころのアート展担当

電話 078(743)8190 FAX 078(743)8180

E-mail: [kokoroart2011@shiawasenomura.org](mailto:kokoroart2011@shiawasenomura.org)

こころのアート展サイト <https://kokoroart2011.info>

【作者と展示作品写真】

画像の掲載をご希望の際は、JPEG.データをお渡しいたします。



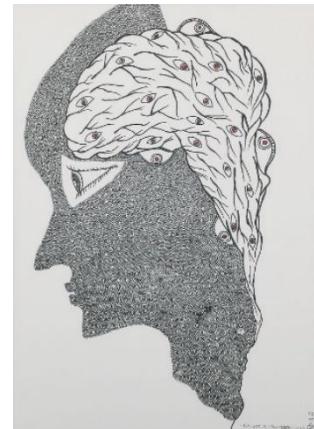
内田 純二



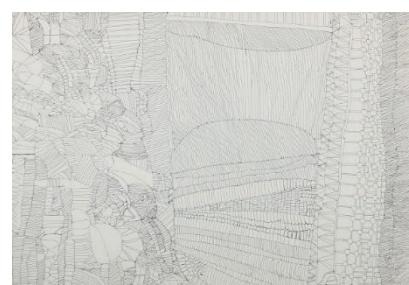
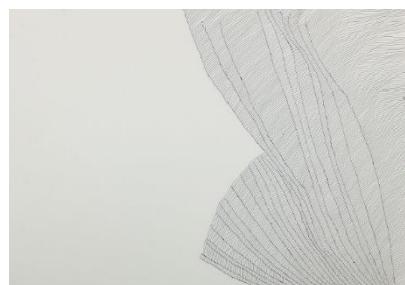
K.M



寝坊 Ken.Ta.

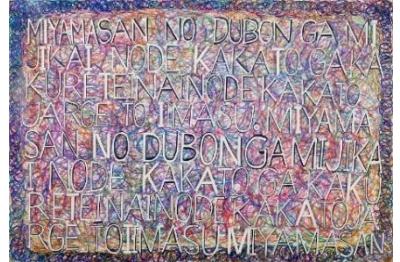


森脇健人





榎並一貴



谷岡諒一



西尾 猛

